

親子で学ぶ SDGs・ESD

対 象：小学生の親子（3年生以上）
 人 数：20～40名
 教科／分野：環境保全・生物多様性
 授業時間数：4時間（2日間）
 場 所：八千代市農業交流館及びほたるの里と近辺

ESD プログラ ムへの 想い	<ul style="list-style-type: none"> 子どもも大人も知らない事や、ニュースでの話には大きな期待と夢を持つ。知ることで自分の暮らしや将来を考えるきっかけとする。 子どもも大人もESD、SDGsのお話を聞き、掘り下げのプログラムに参加する事で社会参加の一步を踏み出してほしい。
目標	<ul style="list-style-type: none"> 学習者がESD、SDGsのお話を先ず聞くことで、自分事として出来ることを考えるようになる。 学習者が自然環境をはじめいろいろな事に興味を持つようになる。 学習者がさまざまな取り組みを知ることで他者（先人）の取り組みを理解する。 学習者が何かできる事を自分で考える。 学習する事で大人は取り組みを理解し、子どもは小さい時から日常の事とする事で学びが身に付き、後の社会参加となる。
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 身近な事柄からでなく壮大な事項から学ぶことで視野が広がり目標がもてる。 掘り下げをすることで、身近な事柄の大切さに気付く。 自分で考え、人の意見を聞く（グループワーク）をする。 1日目と2日目の間に出来そうな事、実行したいと思う事、興味がある事の調べもの等をまとめて発表し、その中の一つとして八千代市ほたるの里まで出て発展させる。（グラウンドワーク）
持続可能な社会 づくりの 構成概念	<ul style="list-style-type: none"> 多様性—1日目の終わりに家庭で出来そうな事や興味を持った事を話し合ってくる。2日目に発表する場を設ける事によっていろいろな意見を聞く。 相互性—お話を聞き、考え、様々に思う事の発表を聞くことになる。それは多面的である。 有限性—話し合う中で、様々な限りあるもの（水やゴミの焼却、環境保全等）が話題になると考えられる。 責任性—お話を聞く事で自分事として考え、出来る事を出来るだけする。また、しようと行動する。
重視する 能力・態度	<ol style="list-style-type: none"> ①批判的に考える力 ②未来像を予測して計画を立てる力 ③進んで参加する態度 ④他者と協力する態度

プログラムの流れ

時間	ねらい	方法 場所	内容
1日目 1、(30分) 休憩 (10分)	視野を広げる	お話 八千代市 農業交流館	<ul style="list-style-type: none"> ・知ることから始める。 ・ESD、SDGsの子どもも分かるようなお話。

1 日目 2、 (1 時間 30 分)	出来ることから 始めるきっかけ をつくる	グループ ワーク 八千代市 農業交流館	<ul style="list-style-type: none"> ・自分事として未来像を考える。 ・グループワーク 17 目標のどの分野が気になったか、数名でグループになり話し合い～発表（現状、行動、未来予想の気付き） ・気になったことや興味を持った事を家で話し合い 2 日目に発表 1～2 分に以内にまとめてくる宿題をだす。 (少し早く終了し、次回の時間が延びる可能性を告知する)
2 日目 3、 (30 分) 休憩 (10 分)	興味を持ったこ とを 他者に伝える事 で後の行動力に 発展させる ほたるの里の 価値を知る	発表 八千代市 農業交流館	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな事を家族で話し合ったか。 ・出来る事、やれそうな事の発表。 (17 目標の中でどれになるか) ・主催者として八千代の環境やほたるの里のお話し
2 日目 4、 (1 時間 30 分) 散策移動 含む	身近に出来る 活動を知る 保全の大切さを 学び 未来を創造する	フィールド ワーク 八千代市 農業交流館 ほたるの里 農業交流館	<ul style="list-style-type: none"> ・ほたるの里を例として見てみよう ・ほたるの里までの川や道の観察と気付き（生き物やゴミ等） ・ほたるの里のお話しや観察（環境保全・生物多様性・生態系のお話し） ・子どももできるボランティア紹介 ・農業交流館に戻り振り返り、気付きの発表とまとめ
SDGs との 関連性	<ul style="list-style-type: none"> ・お話しで学ぶ事で SDGs のすそ野を広げる事となる。17 目標のお話しを分かりやすく聞く。 ・2 日間のプログラムにする事で考える時間を持つ事ができ、自分事として未来を創造することが出来る。 ・親子で関心を持つ事で生活の中に浸透し持続可能であると考えられる。 ・17 目標の 15（陸の豊かさを守ろう）＝八千代市ほたるの里やその近隣を視察する事で環境保全や生態系、生物多様性の気付きを促す。 		
学校・地域 等 との連携上 の考慮	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域の参加者を優先する。 ・近隣学校・NPO 子どもネット八千代に参加の働きかけをする。（ポスター掲示、チラシ配布等） 		
対象を 発展させる 可能性	<ul style="list-style-type: none"> ・大人対象のプログラムとしても活用可能である。 (1 日目 1 の時間、ESD, SDGs のお話を大人用に変更) 		
その他 補足事項	<ul style="list-style-type: none"> ・会場を抑える。（八千代市農業交流館予定） ・八千代市ほたるの里実行委員会の賛同を仰ぐ。（役員会） ・参加費を算出する。（500 円程度） ・日程を検討する。（夏休み） 		

プログラム作成者名（団体名）：武田みどり（八千代市ほたるの里づくり実行委員会）